

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1471901973	事業の開始年月日	平成15年10月1日	
		指定年月日	令和3年9月1日	
法人名	有限会社そふいあ			
事業所名	グループホーム秋谷			
所在地	(240-0105) 神奈川県横須賀市秋谷1-7-22			
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	8名	
		ユニット数	1	ユニット
自己評価作成日	令和4年8月12日	評価結果 市町村受理日	令和4年12月6日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「GH秋谷」での基本原則
①介護スタッフは、利用者に対して、たえず家族同様に接する。 （単なる福祉施設型の介護ではダメ。）
②介護スタッフは、利用者の生い立ち・考え方・嗜好・日々の想いや変化に耳を傾ける。
③介護スタッフは、利用者一人一人の生活・リハビリ目標を日々、把握し行動する。
④介護スタッフ よう行動する。
⑤介護スタッフは、可能なかぎり利用者と一緒に家事労働（調理補助・整理補助等）するよう行動する。
⑥介護スタッフは、プロとしての介護技術（メンタル部分もあわせて）を日々、研鑽する。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年9月12日	評価機関 評価決定日	令和4年10月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所はJR「逗子」駅から京急バスでおよそ25分の前田橋バス停を下車して徒歩で約10分の高台にあります。まわりは静かな住宅街で、海が近く潮の香りを感じられます。外壁が青色の一般住宅を改装しており、玄関から二階までの吹き抜けがある家庭的な建物です。

<優れている点>

ターミナルケアを前提として利用者の生活を支援しています。家族に対しても看取りを考慮した対応をしています。また、食事は職員が分担して調理をしています。地域の八百屋から野菜を購入したり、庭で栽培している果物や近隣の住民から分けもらう食材などを利用しています。医師にも積極的に働きかけ、薬の投与量を減らすことができています。

<工夫点>

利用者に対しても職員に対しても同じ目線で生活、介護ができるように管理者が指導しています。利用者の情報は体調面だけでなく、その人を知ることができるプロフィールを共有できるようにしています。一般住宅を改装した建物は、段差や階段があるなど使い勝手の悪さもありますが、入居前と同じような家庭的な雰囲気の中で生活ができます。災害対策に関して、備蓄品はあえて置かず家庭と同じように普段食している食材を多めに常備しており、災害時でも同じものがおいしく食べられるように工夫しています。利用者への呼び方は、本人の反応やまわりの人たちの好感を持つことができれば「さん」付けではなく愛称としています。現在、コロナ禍で外出が困難ですが、車中から自然を眺めるドライブを楽しんでいます。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム秋谷
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	利用者の立場に寄り添う介護を理念として運営しているが、OJTや職員会議等で具体的かつ現場に即した対応を実践しながら作り上げている。	「とことん家庭的な介護」を指針とし、事業所が独自で作成しているアセスメントシートを利用して職員が情報を共有しています。利用者の気持ちを一番に考え、生活を支援しています。現在の理念は長く掲げており、来年度から理念を新しくする予定です。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近所の方々と野菜・果物・花などを交互に差し入れしている。コロナ前は地域の老人会にも出席していたが、現在は町内会の行事とも疎遠になってしまっている。	町内会に参加しており、事業所の「秋谷だより」を町内会館に掲示するなど事業所があることを周知させてもらっています。コロナ禍前は地元の中学生の職業体験の受け入れや、地域の祭りで神輿を担ぐ子供たちが玄関前までやってくるなど、利用者との交流もしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	以前は、地域に向けて認知症の研修等を提案していたが、コロナ拡大にて困難となっている。今後、ニーズがあれば積極鄭に認知症について伝える機会を作っていきたい。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	日常の事をお伝えする事でご家族に安心していただき、地域の方々にも認知症の高齢者を受け入れる事業者がある事で安心していただけるように取り組んでいる。	コロナ禍のため運営推進会議は書面のみの開催となっています。以前は町内会長や民生委員、家族が参加していました。現在、可能な場合は民生委員が来訪し、意見の交換や情報共有を行っています。横須賀市役所や利用者家族へは郵送で提出しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	年1回の運営推進会議への参加等で色々なご意見やそれ以外での情報発信。コロナに関しても足りない備品配布等での積極的にご協力いただいている。	市役所の担当者が年に1回、運営推進会議に参加しています。現在はコロナ禍のため議事録を郵送するのみですが、行政からは配布物や研修などの連絡があります。横須賀市のグループホーム協議会に参加しており、意見交換・情報共有を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	事業所が開所してから一度も身体拘束を行っていない。また、年に数回は研修等を開き具体的な事例等を活用しながら身体拘束をしない事業所として継続していけるよう取り組んでいる。	2ヶ月おきに実施している職員会議などで身体拘束防止について研修を行っています。具体的な事例を提示し、職員間での情報を共有しています。スピーチロックなど管理者は職員が楽をするために利用者を拘束することが無いよう、常に指導しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年1回の高齢者虐待点検を実施。また、研修にて高齢者虐待の内容・連絡先等の対応について職員に説明している。また、身体拘束にならない為には高齢者虐待を防ぐことが大切であると思ひ、両方の内容含めて研修している。	身体拘束の防止同様、高齢者虐待に関しても職員会議などで研修を行っています。事例があった場合はすぐに指摘し対策を行います。職員が利用者に対して虐待を行うだけでなく、利用者から利用者に対して虐待が起こらないようにも指導を行っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	金銭面で困難な利用者もいるが、家族のサポートが困難な方等については司法書士含め、専門知識がある方に相談した上で対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所前に見学や契約書の十分な説明等に時間をかけて対応している。入所後に質問等があればその都度、管理者が対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や面会時・電話での近況報告時に意見を聞くようにしている。職員会議等で話し合いの上、出来る事柄については対応しており、困難な場合はその都度、説明しご理解いただいている。	運営推進会議は書面で実施しており、家族には議事録を郵送しています。写真を使用したA3サイズの「秋谷だより」を送付しており、事業所での利用者の様子を発信しています。家族からの意見や要望を募っており、出来る限り説明し対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議を2カ月に1回開催し、職員のいけんを聞いた上で運営に反映させる。それ以外にも日常の業務内にて立ち話程度でも意見を聞くように努めている。	2ヶ月に一度、職員会議を実施しています。職員に対して事前に会議内容を配布しており、会議において活発に発言できるよう工夫しています。職員の意見は積極的に取り入れており、危険が無いなどの管理者の承認を得てレクリエーションなどを行っています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	社労士を利用しながら、現状の環境が適切か判断している。職場環境や条件等については必要な場合は可能な限り迅速に対応している。	月に1回、社会保険労務士が来訪しており就業規則の見直しを行い、職員の働き方について指導を受けています。就業期間が長い職員が多く、管理者と良好な関係を築いています。働き方の希望や条件などを伝え、職員の相談には都度対応しています。	職員の状況や希望などを細かく理解するために個人面談の場を持つことを期待します。
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	OJTを基本としている。勤務時にその場で声をかけ実践してもらう事につく仕事の覚え方を心掛けている。それ以外に研修にて専門的な知識や具体例にて分かりやすい説明を行っている。	入職時には管理者がOJTを行っています。実践で仕事を覚えることを基本としており、利用者それぞれに対応できる臨機応変な介護を目指しています。コロナ禍以前は横須賀市のグループワーク（高齢者虐待について）にも参加しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	横須賀市GH協議会の参加し研修や懇親会等に職員を行かせている。また、管理者間での意見交換等の機会を作るようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所時にご本人の出来る事・苦手な事・望む事を会話の中で探すようにしている。慣れたころにも会話しながらご本人の本意やご家族の思いを探し、汲み取るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所後にご家族が安心していただけるように常に耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所時は諦めもあり、多く望まれないことも多くある。会話だけでなくその方の隠れた思いも出来る限り含めたサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活の場という事を第1に必要なサービスを提供は控え、ご本人と共に暮らすという考えで業務を行うようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族・職員それぞれに担う役割を考えて共にご本人を支え合う仲間として関係を深めている。具体的には頻回な状況報告や面会時の会話等で信頼関係も構築している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	物だけでなく人・場所とも簡単に縁を切ることが無いようお手伝いしている。手紙での交流や面会・電話でのお話等を行っている。	コロナ禍ですが、希望する家族には来訪をお願いしており、手紙のやりとりも支援しています。近隣の老人会の方の散歩で声を掛けられたり、近所の方から果物や野菜の提供を受けています。毎日の楽しみとして好みの歌手の音楽を聞いたり歌うなどしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	他人ではなく共同生活の仲間として日々交流できるようにしている。食事を可能な限り一緒に食べてもらうようにして孤立が無いよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後もご家族が雑巾等の必要品の差し入れやメール等での近況の報告・ご家族の介護に関するご相談等、無理のない範囲での交流を続けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話の中で思いや意向を把握している。発語が困難な方は日常の生活内での反応を含め、職員間で情報を共有する事で把握に努めている。	入居後1ヶ月程経過し、利用者の気持ちが落ち着いた頃から徐々に思いや意向の把握を行うよう心掛けています。主に食事時や日常の会話や表情から汲み取りますが、その情報は口頭や連絡ノートで共有し、職員会議で精査しケアプランに反映しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前の情報だけでなく、入所後の会話の中、ご家族からの聞き取りを行う中で今までのご本人の生活歴含めて把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	家事の手伝いや日常生活の中でご本人の得手不得手を把握し、出来る事ややりたい事を勧めるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職種間・ご家族・ご本人と関わる人の意見や思いを含めたケアプランが出来るように努めている。	利用者の状況を独自に纏めた「短期ケアプラン」を基本に「介護サービス計画書」を作成し日々の支援を行っています。2ヶ月に一度の職員会議で事前資料や職員の気付きを基にモニタリングを行い、医療の意見も採り入れ必要に応じてケアプラン変更を行います。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護日誌の記録だけでなく、申し送りや日常の会話等を職員会議で出し合いながらケアを実際に合わせられるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	職員の長所（庭の手入れ・歯科衛生士の資格・服飾に強い）を集めて、既存の介護の枠ではなく、日常生活として考えることで結果、面白いサービスを生み出せるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議等で地域資源の把握に努め、事業所として利用できるサービスがないのか定期的に検討している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	内科医の月2回往診と週1回の訪問看護を基本とし、通院による物忘れ外来の利用等の利用者が必要とする医療を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日常生活の気になる点を訪問看護時に報告し、意見や指示をいただいている。医療的処置が必要な場合は医師とも連携し服薬調整や検査等を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は初期の準備については原則、事業所側が行っている。また、入院先の病院には入院時に治療が終わり次第事業所が受け入れる旨を伝え、病院が負担にならないようにしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に看取りの考え方や事業所の方針をしっかりと説明し受け入れていただくようにしている。往診医や看護師と検査結果を踏まえ、今後の経過や予測出来る状態を把握した上でご本人・ご家族にその都度、説明している。	「看取りに関する指針」が整備されています。約9割以上の利用者が終末期を当事業所で迎えています。特に家族が看取りを受け容れることができるまで一緒に寄り添い、家族の心理的負担の軽減に努めています。医療機関とは24時間の連携体制が取れています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	OJTや職員会議・研修等で様々なケースの対応方法・一般的な対処方法を職員間で共有するようにしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年1回は研修にて災害時の事業所・周辺状況を話し合い、どのケースではどのように対処するかを話し合っている。	「非常災害対策計画」を作成し非常災害時の対応を周知しています。防災及び避難訓練を年2回実施しています。歩行困難者が大半で施設に留まることも視野に入れ、米・味噌の常備やプロパンガス燃料、エコ給湯器で飲料水(約500ℓ)の確保をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	敬語だけの固い苦しい対応ではなく、尊重をしながら砕けすぎない言葉を選びながら、尚且つ職員の個性と利用者にあった接し方をOJT・職員会議等で話し合っ実践している。	基本的には苗字に“さん”付けですが、本人の反応や周りの好感度を考慮し、家族同意のもと、愛称で声掛けをしているケースもあります。職員に不適切な対応があった場合はその場で理由を説明し指導を行い、必要に応じて職員会議で議題にし共有しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	会話の中で希望を聴いたり、過去に行った事を話しながら出来る事・やりたい事を探るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	常々、「職員にとって良い事で、利用者にとって良い事をする。」と職員に伝えている。あくまでも、利用者が主体であることを忘れないで行動するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	職員が見立てたり、ご本人が望んだりした髪型や洋服を楽しんでもらうようにはしている。勿論、褒めることも忘れずに。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	普段の会話の中で、食べたいものを聴いたり、実際に提供する時は誰の希望なのか説明している。また、行事食も大切にして行事ごとに食事を提供している。	献立と調理は職員が交代で行っています。食材や調味料は近くの八百屋や生協の配達で賄っています。不足分は、その都度、管理者や職員が買い出しに行きます。正月には管理者が自宅で作った正月料理を持ち込でいます。季節や行事に合わせた食事を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	年齢・状態に合わせた食事を提供している。低栄養であれば処方にて高カロリー飲料を出したり、水分摂取も選択できるように常時7種類以上の飲料を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	月1回の訪問歯科を利用してもらい歯科医・歯科衛生士からの助言を受けて声かけや介助を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄間隔や排泄の状態を把握しご本人の今の状態に出来るだけ適したおむつの使用等をしている。	日々の排泄状況は、バイタルチェック表や介護日誌に記録しています。おむつは寝たきりの利用者や夜間に使用し、昼間はリハビリパンツを使用し、トイレでの排泄を促しています。夜間はパットを用いたり、自立排泄を大事に大半の人がポータブルトイレを使用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事は野菜を多め、水分も十分にとってもらおう。また、薬の調整だけでなく排泄時の姿勢や腹圧のかけ方や運動等でも便秘を改善するようにしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	原則、週2回の入浴としているがご本人の希望があれば、毎日のシャワー浴や清拭等を行っている。	入浴は週2回午前中に行い、利用者全員がリフト浴なども利用し可能な限り浴槽に浸かるようにしています。状況によってはシャワー浴や清拭の対応もしています。お湯はかけ流しで清潔を保っています。日常の入浴剤や季節の菖蒲湯や柚子湯を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中は茶の間でみんなで過ごし、必要であれば散歩や運動・家事の手伝い等で入床時にスムーズに睡眠がとれるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	管理者が医師と相談の上、ご本人に必要な薬飲み処方してもらうようにしている。変更・注意点等がある場合は、記録し職員に周知徹底を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	性格等も含めてご本人達が楽しんだり、自分が必要だと思ってもらえるよう考えて家事の手伝いやレクを提供している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	歩行できる利用者は天気の良い日に声かけ散歩を行う。車いす等も利用しても散歩を行っている。桜の時期は下りずにドライブのみで楽しんでもらうようにしている。	コロナ禍により、日常の外出は気分転換のための散歩を中心に行っています。また天気の良い日は庭先のベンチで外気浴を楽しんでいます。新型コロナウイルス感染症対策と歩行困難者のために、車中から季節の桜や紅葉等を楽しむことが出来るようワゴン車に分乗したドライブを行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	コロナ禍となり、ご本人が支払いをする場面が極端に減ったが、以前はバザーでの買い物等を行っていた。今後、出来る場面があれば再開したいと思う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望する利用者は年賀状のやり取りをサポートしていた。今後も出来る利用者に関してはサポートしていく。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日中、過ごす時間の多い茶の間は特に換気や空気清浄・掃除等を行っている。それ以外も1日1回は清掃を行っている。	随所に工夫の跡が見られる戸建て住宅型の施設です。特に食堂兼リビングは複数の部屋を一つにし大きな空間を造りキッチンオープンにしています。また2階の浴室をシャワー室とトイレに変えたり、安全面を考慮し、スプリンクラーを設置し、段差の解消も図っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食席・ソファ・椅子等ご本人の状態も含めて過ごせる場所づくりをしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時に自宅で使用していたものを居室における範囲で持ってきてもらっている。また、飾り等が好きな方は茶の間に飾らせてもらい、共用スペースの改善の一部に利用させてもらい、会話のきっかけ等にもなっている。	居室は、和洋あり8部屋すべての造りが異なり一般家庭の雰囲気を残しています。ベッド、照明、エアコンは備え付けですが、カーテンなどは以前の利用者が残っていたものを使ったり、馴染みの物を持ち込んだりと、思い思いに部屋作りをしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	段差がある事業所内なので、逆に生活の中でリハビリと考え、声をかけて危険な箇所を覚えてもらい自力で安全に暮らせるようにしている。		

2022年度

事業所名 グループホーム秋谷
作成日：2022年11月24日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	9	職員会議以外で個々の職員の状況や希望等を聴く場がない。	管理者がGH秋谷の運営に活かすために職員との個人面談を実施する。	管理者と職員の個人面談を年2回（3月と9月）に行い、個々の職員の状況や希望等を聞く場を設ける。意見を参考にしGH秋谷運営に活かす。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月